

Q&A 集 No.4

(Q6) 2025年3月1日から公開

Q6 天使（天女）たちにも嫌いな人はいるのでしょうか？ もし、いた場合、どのようにして心を整えているのでしょうか？

A6 私は天使（天女を含む；以下同じ）たちから、「極悪非道を繰り返す者たちにも愛を注がねばならないのでしょうか？」という質問を、ときどき受けます。ですから、**Q6**の答えは、天使たちにも極悪非道を繰り返す者たちなど、嫌いな人はいます。

では、このような質問を（天使たちから）受けたとき、彼らが得心できるよう、かつ、最大の注意を払いながら、次のように答えています。

*

創造主（以下「第一霊」と言う）が霊界と物質界の宇宙（以下「修行の道場」＝単に「道場」と言う）を創造した目的は、すべての霊体を未来の第一霊に導くためです。しかし、この道場は期限付きです。

初代第一霊の第1回創造時では、期限内に宇宙霊レベルに到達できなかった霊体は完全死を迎えます。この完全死した霊体を第一霊に導くため、初代第一霊は再び期限付き道場を創造します。しかし、期限内に第一霊に到達しなかった霊体は完全死を迎えます。この完全死した霊体を第一霊に導くため、2代目第一霊は期限付き道場を創造します。

このように、前第一霊の怒りに触れた者たち（たとえば、己と家族と仲間と自国の幸せのみをどこまでも追及し、敵対するものたちを排除・殺し続けてしまった者たち）と、前第一霊の霊力をもってしても救えなかったものたちを、未来の第一霊に導くための道場の創造行為

が、次の第一霊によって、と言うように、過去から未来にわたって無限に繰り返えされます。

完全死するのは、「己と家族と仲間と自国の幸せのみをどこまでも追及し、敵対するものたちを排除・殺し続けた者たち」ですから、完全死しないように導くとは、「敵対するものたちに愛を注ぐことができる善想念に満ちた霊体に導くこと」に他なりません。

皆さんは、3代目第一霊を目指して修行中の銀河霊たちですから、敵対する人たちや嫌いな人に対しても愛を注ぐ訓練をすることは必須課題なのです。

しかし、何事にも飽和点と言う限界があります。限界を超えた修行・実践は精神が壊れ危険ですから、自分なりのペースで実践してください。

*

と。

以上をまとめますと、

天使たちにも嫌いな人はいます。そして、このような人たちに出会ったときは、この「嫌いだ」と言う感情をできるだけ小さくするよう努めることによって心を整えています。ただし、限界を超えないよう注意しながら。

天女たちの意見 「嫌いな人にも愛を注ごう」と言う表現では、ハードルが高くて挫折させつします。そこで、「第1巻」に、

*

① 周囲の車も、交通安全（ルール）を守ってくれないと己の車の安全（＝己や家族の命）を守れない。だから、皆みんながルールを守ってくれる社会を目指そう。

② マイナスの大きな数字をプラスの符号に変えるほど、サタン（悪

魔) がサンタ (天使) に変わるほど、世の中は劇的に改善される。

*

と書かれているように、極悪非道を繰り返す人たち (= 嫌いな人たち) がルールを守ってくれるようになればなるほど、地上天国が近づきます。

そこで、

- ① 大好きな人たち (仲間 = 善良な人たち) から
- ② 次に、少しだけ好きな人たち (= ちょっとだけ善良な人たち) に
- ③ 次に、善人ではないが、決して悪人ではないと思える人たちに
- ④ 次に、少しだけ悪人で極悪非道ではない人たちに

社会のルールを守ってくれるよう、かつ、彼らが得心できるよう最大限の注意を払いながら、真理と摂理の働きを説く実践 (= 彼らが完全死することなく、天国に入れるようにと願う、愛の実践) を私たちは行っています。

やがて、このような善想念の波動が、⑤ 極悪非道の人たちにも届くことを願って。

五霊たちの意見 我々も嫌いな人 (= 極悪非道を繰り返す人) たちに出合ったとき、「宇宙霊たちや第一霊には、嫌いな人はいないのだろうか？」と思うことがあります。

そんなとき、「第 2 巻 第 17 章 2 すべての人を許せますか？」を読み返すことにしています。そこには、次のように書かれています。

* *

P さんは会社に向かう途中、夜勤^{やきん}疲れから居眠り運転をしていた Q さんの車に撥^はねられ、両手両足を骨折する全治 6 ヶ月の重傷を負って入院していました。

入院生活が 2 ヶ月ほどになっていました。P さんはベッドに横になりながら、見舞いにきてくれた友人が置いて行った「虹の掛け橋」を読み始めました。読み終わったところで「もし、仏が私の立場だったら Q さんを許せるのだろうか？ 仏はすべての人を許せるのだろうか？」という疑問が湧いてきました。そこへ仏が姿を現しました。

仏 P さん。その質問は自分自身に問うことです。

P それは「自分は Q さんを許せますか？」と問いなさいということですか？

仏 そうです。

P Q さんは、何度も見舞いにきてくれていていますからとても誠意のある方ですし、疲れた体を押してまで仕事をするほど真面目な方です。ですから、この事故の加害者と被害者の関係でなく出合っていたなら、とても良い友達になっていたと思います。

しかし、傷が痛み出すと「もしも、Q さんがその日夜勤をしなければ、居眠り運転をしなければ、車の運転をしなければ、……しなれば」と思い、^{しま}終いには「もしも、Q さんがこの世に生まれてこなければ、私がこんな事故に巻き込まれることはなかったのに」と思うのです。

Q さんを許したい、いや、許さなければいけないと思う一方、決して許せないと言う気持ちも心の中に存在しているのです。

このように、許せないと言う気持ちが残っている以上「Q さんを許せますか？」と言う問いには「できません」と答えるしかありません。しかし、この気持ちは私自身の心をととても苦しめているのです。

仏 「第 15 章 3 ノアの箱船を人に譲れますか？」のところを開いてください。後ろの方に、次のようなイエスのたとえ話が書かれていますね。

*

ある人に息子が2人いたが、彼は兄のところへ行き「子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい」と言った。兄は「いやです」と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は「お父さん、承知しました」と答えたが、出かけなかった。この2人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか、と。

*

「人を許すこと」とは「ノアの箱船を譲ること」や「(体がくたくたに疲れた状態であっても、友・隣人・イエスに代わって)ぶどう園へ行って働くこと」と同じです。ですから、このたとえ話は次のように読み替えることができます。

神は、兄のところへ行き「あなたを傷付けたQさんを許せますか？」と尋ねた。兄は「許せません」と答えたが、何度も頭を下げて謝っているQさんの姿を観て考え直して許した。神は弟のところへも行って、同じことを尋ねた。弟は「許せます」と答えたが、傷付けられた腕と足の機能が元に戻らないと聞いて許せなかった、と。

「すべての人を許せますか？」という質問も意味がないのです。返ってくる答えに意味がないからです。なぜなら、命を懸けると言う思いを口に出すことを我慢できる人でなければ、本当に命を懸けることができないように、本当に人を許せる人は、その思いを軽々しく口に出さないものなのです。ですから、口から出る「許せます」と言う言葉には^{かけら}欠片ほどの重みもないのです。

人間にはイエスのたとえ話の兄と弟の心の両面が備わっているのです。これらの心は交互に訪れるのです。それが人間なのです。誰もが許しを請う側に立つことも、そして許しを請われても許せないと答える側に立つこともあるのです。

ですから、許しを請う人を許し、許しを請われても許せないと答える人を許すことができるように、お互いに努めてゆくことが大切なのです。

信仰の良いところは「人を恨んでいる気持ちがある」と言うような己の心の紋様に気付き、これを反省し、できるだけ恨む気持ちを小さくしようと努める力・心が働くことです。ですから、Pさんのように「許せないと言う気持ちが自身の心をととても苦しめていること」に気付くことが大切なのです。

＊ ＊

と。

このたとえ話と同じように、「嫌いな人はいますか？」言う質問も意味がないのです。返ってくる答えに意味がないからです。なぜなら、命を懸けると言う思いを口に出すことを我慢できる人でなければ、本当に命を懸けることができないように、嫌いな人がいない人は、その思いを軽々しく口に出さないものなのです。ですから、口から出る「嫌いな人はいません」と言う言葉には欠片ほどの重みもないのです。

大切なのは、お互いに、嫌いな人を少なくするよう努めることと、嫌いな人がいると言う感情を理解してあげる寛容^{かんよう}さを持つことだと考えます。

宇宙霊たちの意見 「嫌いな人を^な無くす」と言う実践は、第一霊になるための必須課題であるとは言え、我々にとっても、最難度レベルの課題です。銀河霊である皆様にとっては、なおさら困難な課題でしょう。でも、だからと言って、実践できるよう努力しなければ、現在の地上世界が示しているように辿り着く世界は、嫌いな者たち、敵対する者たちを排除し続ける戦争・地獄の世界です。

何が言いたいかと言いますと、先に天女さんたちが語っているとお

り、①～⑤と、ステップを踏んで徐々に地上天国を目指すことをお勧めします。ただし、限界を超えた修行・実践はしないよう注意しながら。

私たちも、「第一霊界へ続く螺旋状の階段を、昨日は3歩進めたのに、今日は3歩下がってしまった」という経験を何度も味わってきました。

しかし、振り返ると、3歩下がること（挫折）には意味があったのです。たとえば、なぜ挫折する結果を招いたのか？、どうすれば、前に進むことができるのか？ 自分が不足している霊力は何なのか？ など、解析し工夫することによって、霊力を向上させることに繋がっていることに気づけるのです。

では、どうすれば嫌いな人を無くせるのか？ 戦争を止めることができるのか？ 領土がもっと欲しいと言う人の欲望をどうすれば小さくできるのか？

これらの課題の解決策を見出すことは、銀河霊である皆様には困難なことばかりです。

これらの答えを、数十兆年以上生きている孝ちゃんは、「虹の掛け橋」の中で次のように語っています。

○人とできるだけ争わない、敵（＝嫌いな人）を作らないこと。敵を作れば作るほど、彼ら（敵）は皆様の幸せを邪魔する（皆様が不幸になるほど喜びを覚える）悪霊（＝悪霊・怨霊）団そのものになってゆくから。同時に、皆様自身も敵の不幸を願う悪霊と化し、心も目の前の現象（職場・学校・家庭等）も地獄。このような心では、天国に入れない。

そこで、身近なところから友達の輪を広げてゆくこと。常日頃から

周りの人には親切にし、優しい言葉を掛け、そして真心で接することが大切。かつ、敵を作らないほど豊かで幸せな人生となってゆく。さらに、人の悪口は言わないよう訓練すること。なぜなら、悪口は「私はこの人の不幸を願う悪霊です」と語っているようなものだから。そしてこれらの実践は、心の修行に繋がっており、かつ、世の中の紛争を激減させ平和と調和と秩序を齎してくれる。

○敵と認識していた相手は実はその素は、とても素敵な仲間・銀河霊である（もし、敵と言うものが存在するならば、それは己の心に芽生えてくる悪想念）。だから相手を^{いた}労わり助けあって生きて欲しい。

○愛し合う（愛を注ぐ）ことは互いの霊格向上に繋がり、これを応用すれば、地上で生じている問題・課題の大部分を解決できる。言い換えれば、これが問題解決の無限角形的方法（誰もが納得できる最良の結果を^{もたら}齎してくれる方法）です。

○（「やったことは必ずやり返される」と言う「^{のが}逃れることのできない真理と摂理の働き」により）空爆は、未来の自分や家族や恋人や友人や親族の^{ずじょう}頭上（^{じゅうきょ}住居）に、破壊・恐怖・苦しみ・^{わざわ}災い・絶望・不幸と言う爆弾を落とすこととイコールで、自分と家族と恋人と友人と親族の未来（霊界での生活と来世）は^{はめつてき}破滅的である。したがって、爆弾ではなく、互いにこれに相当する金額の食糧・水・衣類・医薬品等の生活必需品（＝愛・喜び・希望・幸せ）を、相手（国）の空き地に投下する。これが戦争を止める無限角形的方法。つまり、この宇宙では理想的解決方法に2つ目が存在しないように創造されているため、この方法以外戦争を止めることができないことを人類の皆様は学ぶことになる。

○中国と周辺国との領有権問題。中国人の方々は気を悪くしないで耐えて最後まで読んでください。

この問題は、I Sの応用問題と言うわけにはゆきません。

つまり中国に生活必需品やライフラインの予算を注ぎ続けても一時的には功を奏しても究極的には解決しません。なぜなら、中国はすでにこれらのものは概ね満たされていることと、この問題を引き起こしている根本的原因がI S問題のそれとは異なるからです。

そこで、この問題を生み出している根本原因を神仏の目をもって突き止めなければなりません。

それは「どこまでも軍事力・国力を増大させようとする力、世界一豊かな国あるいは完全性を求める力、異常に発達した自己向上欲」が原因です。このため、周辺の国々や人々からの不満の声を強力な軍事力でねじ伏せる実績が、不幸にも、中国人にとって、世界一への達成感になっているのです。しかし、これには、軍事力が脆弱^{ぜいじやく}だった時代に、複数の、とつても面積が小さな国々に、大切な国土を占拠^{せんきよ}され^{むご}惨い仕打ちを受けた背景があることを、世界中の人々、特に占拠に関わった国々は理解することが大切です。

では、この力を抑えるには世界中でどのような行動をとれば良いのか。

答えは「世界中で^{シエシエ}謝^{とな}（ありがたいの意）と唱えること」です。

そんな簡単な方法で解決するのか、あるいは軍事力削減とどう関連してくるのかと疑問に思われる方が多いかと思いますが、私を信じて最後まで付き合ってください。

説明を続けます。

ではどのように唱えるのか。

イメージの世界で、幼児期になって、すべての中国人に向けて「シ

エシエ」と唱えます。

少年（少女）期になって、すべての中国人に向けて「シエシエ」と唱えます。

青年期・壮年期・老年期・終末期になって、すべての中国人に向けて「シエシエ」と唱え、イメージの世界で人生を閉じます。

所要時間は 10 分です。

つまり、皆様は人の一生の時間レベル 100 年をすべて、中国人に向けて「シエシエ」と唱えながら過ごし人生を閉じたのです。他のことは一切しなかった、そんな人生です。

「シエシエ」この言葉から生み出された善想念で宇宙が満ちてゆきます。

この光景を観ている天から皆様お 1 人おひとりに、膨大な福德が届けられます。

この福德を自ら受け取るのではなく、すべての中国人が幸せになって頂くために使ってくださいと天に祈ります。

やがて、すべての中国人と皆様が共に天から注がれる光輝に包まれ、地上に存在するすべての^{わかま}蟠^とりが解けてゆきます。

所要時間は 5 分、合計で 15 分です。

この時点で、一見すると地上は何の変化も起きていないかに観えます。が、そうではありません。確実に変化しているのです。

では、何が変わったのか？

答えは「皆様の心の紋様が変わった」のです。

「第 4 巻」をここまで読まれ、かつ 10 分間「シエシエ」と唱えることによって、皆様の心の中に存在していた悪想念が可能な限り拭き取られたのです。「シエシエ」は悪想念を拭き取るウエットティッシュだったのです。

皆様の中で、戦場へ向かわれる方、あるいは核ミサイルのスイッチ

の前に立つ（座る）方はいません。「虹の掛け橋」が多くの方にここまで読まれれば読まれるほど、戦場へ向かう方は少なくなるのです。やがて、戦場へ向かう方はいなくなります。その道具である武器は必要でなくなります。

こうなると、中国で軍事力を増大させようとする力は消えてゆき領有権問題は消滅する形で解決します。

霊格が銀河霊レベルに向上すると、地上の国土（地・海・空）は地上の全生命体の共有財産であることと、目くじらを立てて領有権を主張し合うと、核戦争＝人類絶滅に繋がっているばかりでなく、敵意と悪意に満ちた不幸な世界（家庭・学校・職場・国家・未来）が自動的に創造されてしまうことが、理解できるようになります。

これ（シエシエと唱える）以外に解決方法はありません。なぜなら、ちよっぴり意地悪な私ですから、この方法以外では解決できないよう、真理と摂理を配したからです。

この解決方法の素晴らしさを、この本の営業マンである私から少しご説明させて頂くと、

- ① 誰も傷付いたり不利益を被る者はなく
- ② すべての者を癒し
- ③ 蟠りを解き
- ④ 心を浄化し
- ⑤ 霊格の向上を促し
- ⑥ ベッドの上で横になっている者でも実践可能で
- ⑦ 予算も掛からず
- ⑧ 短時間（15分）で成就させている
- ⑨ 恒久的解決方法

だからです。

多くの皆様は、現時点では、理解不能かも知れませんが、皆様で協

議し、これはと思う別法で心ゆくまで試してください。

やがて手段が尽き、皆様は 1,300 円の「虹の掛け橋」に必ず戻ってきます。

○霊界の銀河霊から「領土問題に現を抜かす人は、ウイルスたち（癌細胞や病原菌を含む：以下同じ）との戦いに終止符を打てないのはなぜですか？」と質問を受けましたので、皆様に得心して頂けるよう細心の注意を払いながら説明させていただきます。

この理由には、因果律と言う摂理の働きが関わっています。

地球を上空から観ると、国境線はどこにも描かれていません。これは、人類が欲望丸出しで血みどろの戦いを繰り返してきた結果、地球儀や地図上に生まれた、神仏たちが目を背けたくなる醜い図形（線）なのです。

地球は本来、地上の全生命体の共有財産です。太陽が光を注ぎ、天が雨を降らせて海や川を創り、植物プランクトンたちが酸素を生産し、愛に満ちた宇宙の営みによってオゾン層が形成され、命を捧げる生物たちの愛を受けて（食して）、初めて人類は地上で生活できるのです。

もし、占有・領有権が存在するのであれば、人類にではなく「地球本体＝地球と言う名の惑星霊体」にあるべきです。

これらの実相を多くの人たちが自覚できていないため、血塗られた戦いで勝ち取った領土は、自分たちの意のままにできると思い、地中に穴を開け、核実験を行うなどして地球を傷つけているのです。

領土問題に現を抜かす方は「自分の身体の所有権は自分にあるから、自分の意のままにできる」と考えているようです。一方、地球は地上の全生命体の共有財産であることが認識できている第一霊体になった者は「身体（お金や知識や時間も）は、周りの生命体を幸せにするために天から授かったものである

にある」と考えています。

したがって、前者の中には、身体に良くない物を食し、煙を吸い、^{かくせいざい}覚醒剤を打って、好き放題の方もおられます。しかし、後者は、心身のメンテナンスを心掛け、**and** 脳を愛し、髪を愛し、目を愛し、耳を愛し、鼻を愛し、口を愛し、舌を愛し、^{のど}喉を愛し、声を愛し、手足を愛し、全臓器を愛し、姿を愛し、・・・・・・、そして、すべての細胞→分子→原子に至るまで無上の愛を注いでいるのです。(ここで補足説明しますと「虹の掛け橋」は第一霊体を身につけるための遺伝子情報が書かれた本ですから、下線部の実践は、皆様が霊界と宇宙の隅々に愛を放射するための霊力を身につける、実践訓練課題になっています。)

愛したものは愛されると言う摂理の働きにより、第一霊の全細胞は第一霊に愛を返し、そして第一霊の身体を形成できる細胞（や臓器）として存在できることに無上の喜びを感じながら命が尽きるまで働き（活動し）ます。

一方、前者は、身体にウイルスたちが侵入してくると、自分の身体の所有権を主張し、免疫細胞を総動員して攻撃します。すると、この行為によって因果律の摂理が働きはじめます。つまり、前者は、地球が地上の全生命体の共有財産であるにも拘らず、^{かかわ}後から地球にきたのに占有権が我にありと勘違いして、その権利を主張する方ですから、この考えが誤りであることを悟らせるため、体・細胞に侵入したウイルスたちも、人類の姿を映す鏡となつて、後から体内に入ってきたのに、身体の占有権は我にあると主張しはじめます。そしてどこまでも増殖しながら領土を広げることに現を抜かす道を歩み続け、宿主（=前者）を倒して、人類の絶滅を願う霊体たちから膨大な感謝の念を受け、喜びの中で己も死を^{むか}迎えるのです。皆様には耳に痛いかも知れませんが、あえて表現するなら、ウイルスに^{おか}冒された体内は、領有権を主張し合うもの同士（人類 **and** 医学と、ウイルス）が際限なく争う、

自業自得と言う因果律の摂理のなせる業・世界です。このため、人類は摂理の担い手であるウイルスたちとの戦いに終止符が打てないのです。

しつこいようですが、対照的に、後者は、身体は天地宇宙のものであると考えていますので、侵入してきたウイルスたち（の命）も（摂理の担い手として存在理由のある：天から存在を認められている）天地宇宙のものであると認識し、1つの身体を、天から存在を平等に認められているもの同士で、共有する道を選択し、ウイルスたちに無上の愛を注ぎます。すると、この行為によって因果律の摂理が働きはじめます。つまり、ウイルスたちは第一霊レベルの霊体が発する究極的な愛にのみ感応^{かんのう}する霊耳^{れいじ}を持っていますので、愛を受け取った霊体は、霊格が向上すると言う真理と、愛を返すと言う摂理の働きによって、ウイルスたちは第一霊に無上の愛を注ぎながら、身体・細胞を共有する道を選択します（第5巻参照）。このため、ウイルスたちとの戦いに終止符が打てるのです。

そして、神仏の目で捉^{とら}えたとき、領土問題に現を抜かす方は、地上世界を核戦争の恐怖にさらす＝全生命体の絶滅の危機を招く恐れのある反真理的行為者ですから、地球（惑星霊）にとって、いや、全生命体にとって、ウイルス霊的存在と言え、犯している罪は途轍^{とてつ}もなく重いのです。これが実相・反真理の姿です。

ですから、人類は、今までのように、自分たちにとって都合の良い世界を目指して欲望や感情に任せて行動するのではなく、これからは、地上世界は心を磨くための修行道場であることを認識したうえで、己の言動が周囲にどのような影響を与え、その結果、どのような事態を招く可能性・危険性があるのかを、よくよく吟味したうえで行動すべきです。

さらに、誤解を恐れず付け加えるならば「霊界と物質界の宇宙は、

周りの生命体を幸せにするために活動する・生きるものたちのみが共同生活を許されている神聖な場・世界」なのです。

○悪人（罪人）を救えない宗教（神仏の教え）は宗教ではありません。

と。

また、

【シルバーバーチ君の言葉】

○忌み嫌われている文字を使ったことのどこが素晴らしいのか。

「仏」「魂」「サンタ」「完全」「翼」「主」「母」の文字を使えば神仏の教えを説く物語を創ることは容易い^{たやす}のです。利用し易い材料を使ってでき上がっているものでは人々に与える感動は小さいのです。最も利用困難なものを使って、しかもその物語が人知を越えるほど美しいとき、人々は真に感動するのです。この観点で捉えると「鬼」「サタン」「害」「罪」「毒」は神仏から最も遠い存在ですから、誰も利用せずにいつまでも残される材料です。この材料を彼は選び愛の光を注いだのです。

【バーバネル君の言葉】

○誰からも強^しいられることなく、自ら彼の教えを選択し学んだ我々銀河霊は、まず、すべてのものに愛を注ぐ実践を始めます。これは己の霊格を向上させる目的を持ったものですが、次第に目的意識は薄れ、飢えている人、寝る場所もない人、病に苦しんでいる人、救いを求めている人がいるから愛の手を差し伸べるのだと、自然に体が動くようになります。

その結果、飢えている人たちが満たされてくると、今度はこの人たちに重要な役割を担わせることによって、生き甲斐と言う命を付与したいと言う強い衝動に駆られ、愛と知恵と勇氣と希望からなる善想念で答えを探り始めます。

真摯しんしに探し続けていると、不思議なことにやがて答えの方から近づいてきて、答えが示す方法を実践することによって、この人たちに生き甲斐と言う命を付与する靈力が身につきます。

この実践の場は、生命体から物質界、そしてやがては概念の世界のものたちへと広がってゆきます。

こうして、我々銀河靈は彼の教えを実践しているうちに、知らぬ間に概念のものたちに躍動やくどうある命を付与できる靈力、つまり、概念のものたちを素材として生き甲斐を持った命に満ちた靈界と宇宙を創造するために必要な靈力が身についてくるのです。

このようなことから、我々銀河靈は「虹の掛け橋」に書かれている教えを実践していれば、人の一生の時間レベルで自然に靈界と物質界の宇宙を創造できる靈力を身につけ、大靈となることができると確信しているのです。

皆様も聖なるものから最も遠い存在にまず愛を注ぐことから始め、次第にこのものたちに生き甲斐と言う命を付与したいと言う強い願いを抱きながら心を満たしていれば、宇宙を創造できる靈力が養われ、人生を終えて靈界に来られたとき、速やかに大靈の靈力を発揮できるようになる筈です。

と。

これらの内容を参考に、靈界と地上の全銀河靈で協力して、地上天国を目指してくだされば、と思います。